

2022(令和4)年度 第2回八尾市外国人市民会議【会議録概要】

日時:2023年3月1日(水) 午後7時から午後8時30分まで

場所:市役所本館6階 602 会議室

出席委員:桑名恵、ダーリントン ティカス イブラヒム、朴 洋幸、山内 雅之、
トラン グエン ワン ヴィン(敬称略)

事務局(人権政策課):松月課長、阪田課長補佐、富田係長、諏訪主事

1. 開会

2. 会議進行

【資料1】第2次八尾市多文化共生推進計画 進行管理表について、事務局より説明。

<質問など>

- ・実績と評価が合っていないと感じる箇所がある。
⇒あくまで、達成度ではなく寄与している度合いであり、担当者によって評価基準に差が出ている部分はある。
- ・「41 子育てチャートリーフレットを使った子育て支援」について、せっかく多言語化した情報を、どのようにして、必要な人に届けるかが課題になる。手渡しなどはできているか。
⇒窓口では活用いただけているが、基本的には配架になっている。現場で手渡ししてもらえるような方法について検討していく。
- ・「54 外国にルーツを持つ子どもたちに対するいじめへの相談対応」について、実施しているやおっこ手紙相談は説明文のみが多言語化なのか、それとも手紙全体が多言語化なのか。子どもたちに外国語で「相談できる」という案内がとどいているのかどうか気になる。
⇒担当課に確認する。 ※手紙、説明文等すべてが多言語化になっていることを確認済。
- ・「62 市立病院での多言語対応」について、他の病院にも取り組みを広げていくことができないか。
⇒公立と民間の違いがあり、難しい。
- ・「89 ヘイトスピーチに対する取り組み」について、特設法律相談の実績はどうか。
⇒人権についての法的なアドバイスができるよう相談体制は整えているが、実績としては多くない。

3. 意見交換 (外国人市民と日本人市民の交流について)

- ・交流イベントだけではなく、徐々に文化の違いを理解できる教育的な機会があれば良いのではないかな。
- ・外国人でもPTAやこども会に参加したことがある人は積極的に動けるが、そういった経験がなければ自発的に動くのは難しい。
- ・イベントに参加して何かをしてほしいのであれば、してほしい役割を明確に言わないと分からない。「お願いします」「手伝ってください」では伝わらない。
- ・イベントへの参加を呼びかけるのであれば、企画段階から誘うことが必要。
- ・イベントを主催する側が、外国人市民をお客さんと捉えてしまうと難しい。一緒に作り上げていくという過程が大事だと思う。
- ・町会と外国人を繋げる「多文化コーディネーター」の役割をしてくれる人はいるのか。

- ⇒そのようなコーディネーターの役割をしてくれる人は少ない。日本語も外国語も話せる人はいるが、その人を通訳者として、その人としか話さないから繋がりはうまくない。
- ・外国人市民だけが何もしていない、というように感じるのは外国人市民が多く住む地域だからこそ起こる意識であると思う。こんなにたくさんの外国人がいるのに何もしてくれない、とってしまうのではないか。
 - ・外国人市民が主催しているイベントに参加すると準備も片づけもしっかりやっている印象がある。主催側に入ってもらえるかどうかが大切だと思う。
 - ・外国人市民は若い世代が多く、イベントに参加してもらうことで活気がうまれている。地域でも、メリットとして感じてもらえるところだと思う。
 - ・日本語が話せる外国人市民に PTA や子ども会の活動に入ってもらうことが大切。
 - ・外国人市民とのつながりという意味では、やはり町会を活用するのがよいと思う。
 - ・外国人市民に向けて回覧版で案内をしても、日本語の情報が多すぎて見てもらうことができない。
 - ・子どもたちは学校を通して交流しているので、子どもたちのつながりから大人へ、つながりを広げていくのが理想ではないか。
 - ・八尾市役所で外国文化を伝える機会はあるか。
- ⇒市主催の事業はないが、八尾市国際交流センターで行っている。
- ・日本人側から外国人市民に対する働きかけが大事なのではないか。日本人の大事にしている文化を外国人に伝える機会があれば良いのではないか。

4. 八尾市外国人市民会議のまとめについて

資料2 八尾市外国人市民会議のまとめについて、事務局から説明。

5. 閉会(委員から一言)

- ・会議に参加して八尾市の多文化共生に対する取り組みについて勉強になった。
- ・取り組みに挙がっている「大学との連携」についても、できることから検討していきたい。
- ・外国人市民に周知する難しさについて、会議を通して改めて感じた。
- ・外国人市民は行政に対して、時々イベント・文化の情報発信と日々の正確な情報発信を望んでいると思う。ベトナムの人たちには Facebook で行えば、見てもらえることにつながるのではないか。
- ・この会議を含めて、若い世代の人をどう取り込んでいくかが大事。多文化共生という考え方は曖昧なところもあるので、未来を想像しやすいようにする工夫も必要であると思う。
- ・少しずつではあるが、アクセスのしやすさが改善されたところもあるので、より外国人市民が暮らしやすい、情報にアクセスしやすい八尾市になるように協力していきたい。